

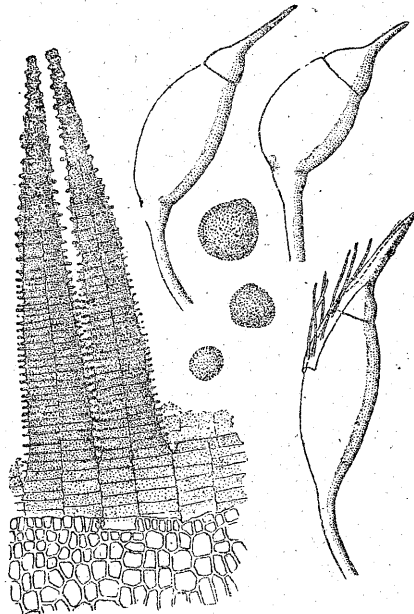
野口 彰* 日本産蘚類の研究 (其八)

Akira NOGUCHI: Notes on Japanese Musci (VIII).

51) ハコネヲカムラゴケ *Okamuraea hakoniensis* (Mitt.) Broth., Nög. in Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa 25: 68 (1935). (第32圖)

Rigodiopsis japonica Dix. et Thér. in Rev. Bryol. 4: 155 (1931), syn. nov.

近年 H. N. Dixon は本邦産の蘚類について多くの新屬を作つた。その一に I. Thériot と共同して設立した *Rigodiopsis japonica* Dix. et Thér. という Brachytheciaceae に屬する新屬新種のものがある。これに就て想ひ起すことは、昭和3年1月6日筆者は、當時都城中學校教諭で蘚類の採集に努力されていた鮫島氏と共に、日向國青井岳官有林に採集に行き、とある小川の上のび出た樹枝に、子嚢體の熟した *Okamuraea* 屬の一品を得て、兩人で分け合つた事がある。筆者は後にこの材料の一部を笹岡久彦氏に分譲し、同氏は更に Dixon に送つたものと見えて、これが *Rigodiopsis japonica* の基準標本となるに至つたのである。その後筆者は本種に言及する機会がなくて今日に至り、その發表は更に他日 *Okamuraea* 屬の他種をも検討した後に譲つていたものである。元來この蘚に就て筆者は *Okamuraea* 屬の一種と信じていたものであるが、Dixon 等は本品を可成り特殊なものと見て、その所屬に迷ひ乍ら *Okamuraea* 屬近似のものと判定して、*Rigodiopsis* 屬を設立したのである。今 Dixon 等がこの屬を *Okamuraea* 屬から異なるとした點は、主として (1) The subpendulous, turgidly elliptic capsule, with subulate lid, (2) the large spores, にあるようである。まづ (1) に就てみると、上記の基準標本では蒴胞は turgidly elliptic のものもあ



第32圖 *Rigodiopsis japonica* Dix. et Thér. の蒴基準標本 蒴果×10. 蒴齒×114. 胞子×180

* 本研究の一部は文部省科學研究獎勵費によつてなされたものである。 大分師範學校生物學教室。

り又長橢圓状のものもあつて、*Okamuraea* 屬の基準種 *O. cristata* Broth. のものなどと餘り異なっていない。*O. cristata* の蒴蓋の形に就ては、基準標本が古かつた爲め Brotherus は何等觸れていないが、岡村周諦博士がその基準標本と同じ場で、明治39年12月29日に採取された標本は完全なもので、その子囊體に就ては同博士が植物學雜誌に完全な記載と圖を發表されてゐる¹⁾。その發表物やその時の標本と、*Rigodiopsis japonica* の記載や青井岳の標本とを夫々比較検討してみても、very distinct は愚か、違いという程のものは見出し得ない。(2)の點に就て Brotherus は *O. cristata* を發表するときには、胞子を見ていなかったたのであるが、岡村博士は胞子は變異に富むことを認めて、大きいものは徑 50μ 、小さいものは 28μ 通常 42μ と明瞭に發表されている²⁾。然るに Dixon の large spores という程度は、彼の記載中に “ 40μ vel ultra” とあるから、*O. cristata* のものゝ大きい方の大きさと差異はない事になる。これを確める爲に *R. japonica* の基準標本に就て計つてみると、これ亦大變に變異のあるもので、徑 25μ 程度から $55\times 35\mu$ 位まであり、 35μ 程度のものが最も多い、という風に色々の大きさのものが混在している。斯様な次第で、Dixon が違ふといつてあげた點は、*Rigodiopsis* 屬と *Okamuraea* 屬とを區別する根據とはなり得ない。然るに *Okamuraea* 屬の基準種 *O. cristata* に岡村博士や Brotherus の與えた記載と、*R. japonica* の原記載とを比較してみると、一つ重要な違ふ點のあるのに氣がつく。即ち *Rigodiopsis* 屬には内蒴齒が全くないと記されており、*O. cristata* は Brotherus³⁾ 及び岡村博士⁴⁾ 共に “endostomium hyalinum, minutissime papillosum; corona basilaris humilis; processus brevissimi, obtusi; cilia nulla.” という事になつてゐる。この點を解決するため、岡村博士の記載のもとになつた *O. cristata* の標本を調べてみた。其の結果内蒴齒は極めて發達の弱い膜状のもので、殆ど内蒴齒と考えられない程度のものである。この程度のものなら *R. japonica* にも存在するのを筆者は觀察した。斯様にして、*Rigodiopsis* 屬を *Okamuraea* 屬から區別する何等の根據なく *R. japonica* は *O. hakoniensis* と同種である。尤も *O. hakoniensis* と *O. cristata* とは非常に近い種で、両者が夫々獨立の種であるか否かは尙研究の餘地がある。

52) *Rigodiopsis* 屬の發表ある前頁に、*Okamuraea brevifolia* Dix. et Thér. sp. nov. というのが出ていたので、之を調べてみた。本種は從來筆者には不明の種であつたが、その控基準標本⁵⁾を調べてみると、之は意外にも *Okamuraea* 屬のものではなく、次の如く整理する必要が起つた。

Okamuraea brevifolia Dix. et Thér. = ***Dolichomitriopsis diversiformis*** (Mitt.) Noguchi (Syn. *Hypnum diversiforme* Mitt., *Isothecium diversiforme*

1) 植簾, 22: no. 254, (99), 41 (1908) 2) 同上, pp. (101), 42—43 (1908)

3) Finsk. Vet. Soc. Forhandl, 49: 3 (1905—06).

4) 植簾, 22: pp. (101), 42 (1908)

5) 服部新佐氏の好意によるもので、特に謝意を表する。

Besch, *I. pseudomyrum* Card., *Isotheciadelphus variabilis* Dixon).⁶⁾

尙 *D. diversiformis* (Mitt.) Nog. は變化性に富み、將來幾つかの型に分ける必要があるかもしれない。*Isotheciadelphus* Dix. et Thér. 屬は *Dolichomitriopsis* Okam. 屬と同じもので、*I. obtusifolius* Dix. 並びに *I. Sasaokae* Dix. et Thér. は共に *Dolichomitriopsis* 屬に移された。〔分布〕本州、四國、九州、朝鮮。

53) レイシゴケ (新稱) *Myurella gracilis* (Weinm.) Lindb. in Medd. af Soc. Faun. et Fl. Fenn. 13: 354 (1886), Moenk. in Rabenhorsts Krypt.-fl. 676, f. 151, c (1927).

Hypnum gracile Weinm. Syll. M. Frond. 46 (1845), C. Muell. Syn. 2: 418 (1851).

Myurella Careyana Sull. Musc. of U. St. 61 et 81, t. 5 (1856) et Icon. Musc. 131, t. 83 (1864), Roth, Eur. Laubm. 2. 340 et 683, t. 35, f. 15 (1905).

〔生態〕石灰岩上に生育する。〔産地〕本州: 武蔵氷川町天祖山立岩 (服部新佐, 1940 年 7 月)。

本種は歐洲、シベリア、北米方面に寧ろ稀に産するとされており、わが國からは今回初めて知られた屬種である。

54) ヤバネゴケ *Dichelyma japonicum* Card. in Bull. Soc. Bot. Genève, 2 sér. 1: 132 (1909). (第 33 圖)。

Dioica. Planta ca 8cm longa sordide viridis inferne lutescentifusca haud nitida. Caulis dendroideo-divisus flexuosus superne ± arcuatus. Folia caulina ± homomalla oblongo-lanceolata apice obtusa, 2.5~4 mm longa conduplicata vel carinato-concava superne canaliculato-concava, basi decurrentia., insertione lutescenti-fusca, marginibus convexis superne remote serrulatis summo apice serratis, inferne integris, costa valida continua, cellulis parietibus tenuibus, medianis 100~110×6~7 μ, superioribus et basilaribus brevioribus, alaribus non diversis, insertionibus, subrectangularibus parietibus crassioribus lutescenti-fuscis. Bractee perichaetii internae anguste oblongae ± spiraliter convolutae ecostatae integrae ad 5.5mm longae, externae multo minores. Seta ca 8mm longa 0.15mm crassa laevis. Theca erecta cylindrica fulva ca 3×0.75mm. Folia perigonia interna late elliptica ca 0.8mm longa cochleariformiconcava ecostata integra, paraphysibus numerosis.

〔産地〕北海道: 北見名寄 (Faurie, no. 3049—控基準標本)。〔分布〕特産。

コシノヤバネゴケ var. *Hatakeyamae* (Okam.) Noguchi, comb. nov. (第34圖)

6) 服部植物研究所報告に「日本、琉球、臺灣産イダチゴケ亞族及びメリスゴケ亞族の藓類」の題下で印刷中。

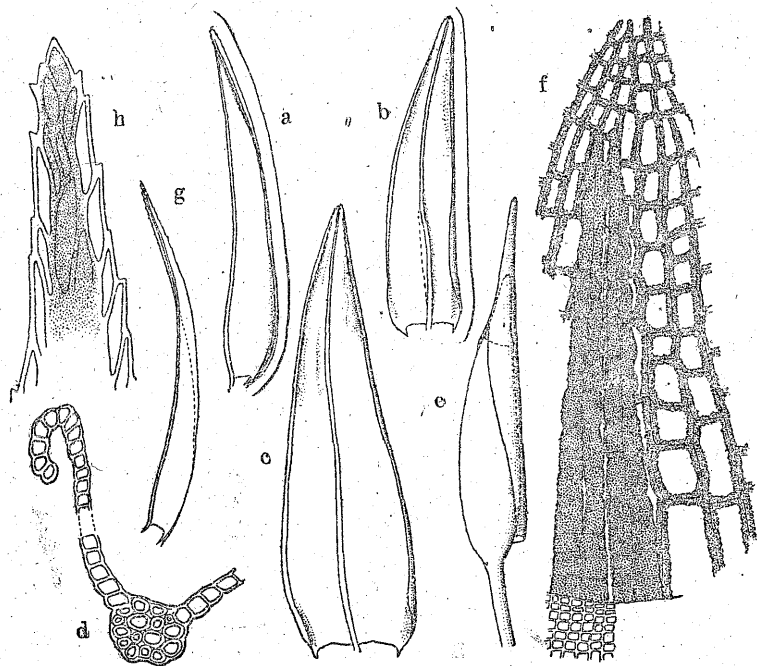
A-F)。

D. Hatakeyamae Okamura in Bot. Mag. Tokyo 25: 137, f. 5 (1911).詳細な記載を伴つて發表された *Dichelyma Hatakeyamae* Okam. は, 1925 年 Bro-第 33 圖 *Dichelyma japonicum* Card. の標基準標本

a. 體の一部, $\times 10$, b, c, 葉, $\times 14$, d, 葉の横断面, $\times 255$. e, 葉の先端部, $\times 255$,
f. 葉の中央部の細胞, $\times 255$.

therus によつて *D. japonicum* と同種ということになり, その異名にされて今日に至つた。筆者はこの兩種の標基準標本を比較してみても, その間にいくらかの差異のあるのに氣付いた。即ち *D. japonicum* の葉は縁邊で殆ど反曲しないのに, *D. Hatakeyamae* では著しく反曲し, type locality の近隣の標本でもこの性質は認められるので, この點を考慮に入れ, *D. Hatakeyamae* は變種位にしておくのを適當と考える。尙 var. *Hatakeyamae* では, 特に廣い葉の混つてゐる事がよくある。因に *Dichelyma* 屬の種に於て, 體の色が種別の重要な標準になり得ると思われぬが, *D. japonicum* の方は採集後可成りの年數が経つていても依然よごれた綠色であるのに, var. *Hatakeya-*

mae の方は割合新鮮な標本でも、若い部分は光澤のある黄緑色乃至黄褐色を呈してゐる。本變種では蒴の大きさには可成り變異があるようで、控基準標本でても (1—1.5—2.8)×0.8mm の如く變化があり、蒴柄の長さも 5—9mm という具合に長短がある。



第 34 圖 a—f *Dichelyma japonicum* var. *Hatakeyamae* Nog.

g, h. *D. falcatum* Myrin

a, b, c, g, 葉, ×14. d, 葉の横断面, ×255. e, 子實體, ×10. f. 蒴, ×84.

h, 葉の先端部, ×255. (a—d は控基準標本に, e, f, は地蔵山産, g, h, は奥川産標本による)

〔産地〕 本州: 越後・川東村オド山 (畠山久重, 1909 年 10 月—控基準標本), 地蔵山 (岩崎二三, 1936 年 10 月), 信濃志賀高原 (岩崎, 1936 年 7 月). [分布] 特産。

55) ホソバヤバネゴケ (新稱) *Dichelyma falcatum* (Hedw.) Myrin in Act. Reg. Acad. Sc. Holm. 274, t. 6 (1832), Bryol. Eur. 5: 6, t. 433 (1842), Sch. Syn. 2 ed. 557 (1876), Card. Mon. Font. 135 (1892), Roth, Eur. Laubm. 2: 294, t. 30. f. 7 (1905), Broth. Laubm. Fenn. 399, f. 69 (1923), Moenk. in Rabenhorsts Krypt.-fl. 666, f. 146, a—e (1927). (第 34 圖, G, H)

Fontinalis falcata Hedw. Descript. 3: 57, t. 24 (1792).

Neckera falcata C. Muell. Syn. 2: 143(1850).

従来 *D. japonicum* の一品と思つていた岩代産の標本(立派な標本でない)に、まだ日本から知られていない *D. falcatum* と同定した方がよいものがある。然し葉の先端部に於て一般に歐洲産程のびず、従つて中肋も葉の先端にのびこみ方が著しくないようである。尙葉細胞も葉の中央部基部、共に短い傾向がある。

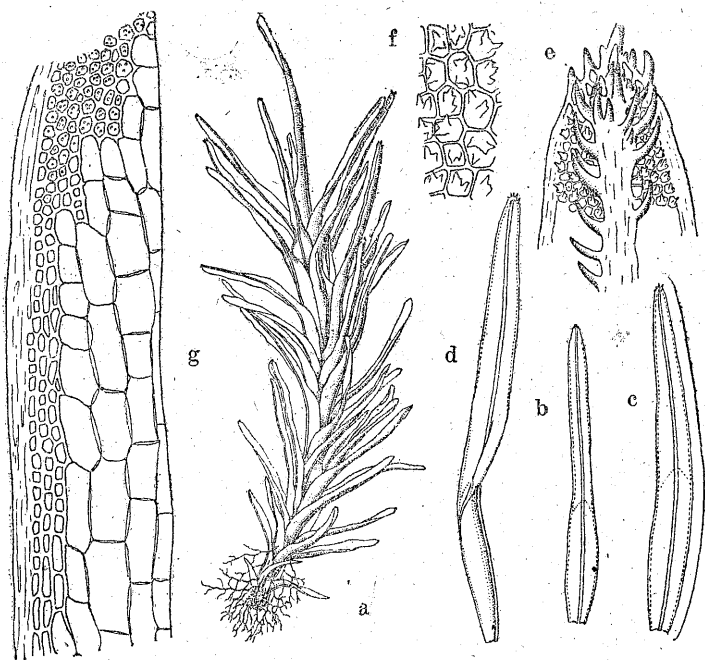
〔産地〕 本州: 岩代奥川(玉木, 1912 年 7 月).〔分布〕 Eur., siberia, N.-Am.

56) イボハソエゴケ (新稱) *Trichosteleum Boschii* (Doz. et Molk.) Jaeg. Adb. 2: 487 (1871-75), Fleisch. Mus. Fl. Buit. 4: 1321, Bartr. in Philipp. Journ. Sci. 68: 342, t. 29. f. 440(1939).

Hypnum Boschii Doz. et Molk in Ann. Sc. Nat. 4: 306 (1844), C. Muell. Syn. 2: 404 (1851), Bryol. Jav. 2: 175, t. 274 (1867)

〔生態〕 腐朽せる樹幹上に生ずる。〔産地〕 臺灣; 臺北ラハウ(野口, 1932 年 8 月).

〔分布〕 Malay 半島, Siam, Java, Sumatra, Borneo, New Guinea, Philippine.



第 35 圖 *Syrrhopodon tosaensis* Card.

a, 植物體, $\times 10$, b-d, 葉, $\times 16$, e, 葉の先端部背面, $\times 180$, f, 葉の中央部の細胞, $\times 343$, g, 葉基部, $\times 180$

本種は臺灣からは初めて報告される種であるけれども、櫻井久一氏によれば琉球西表島にも産する、との報告⁷⁾があるが筆者はまだその標本をみていない。

57) イサハゴケ *Syrhropodon tosaensis* Card. in Bull. Herb. Boiss. 7: 716 (1907). (第 35 圖)

Planta gracilis ad 1.3mm alta albescenti-viridis opaca, laxe caespitosa. Caulis nigrescens simplex vel parce ramosus laxe foliosus. Folia sicca et madida erecto-patentia recta, linearia basi angustiora carinato-concava, apice obtusa et propagulifera vel acuta grosse eroso-dentata, $1.7 \times 0.25 - 3 \times 0.35 - 4 \times 0.4$ mm, propagulis fusiformibus ca 0.14mm longis, marginibus \pm incurvis integris anguste limbatis, limbo distincto continuo e cellulis anguste linearibus pellucidis composito, costa lutescenti, basi $25 - 55 \mu$ lata rufescenti-fusca, dorso apice eroso-dentato, cellulis laminalibus obscuris quadrato-vel elongato-hexagonis vel quadratis, parietibus tenuibus, $10 - 15 \mu$ in diam. alte papillois, papillis ventralibus subspiniformibus, dorsalibus stelliformibus, cancellina e cellulis laxis rectangularibus vel quadratis hyalinis $40 \times 30 - 80 \times 25 \mu$ parietibus tenuissimis composito, insertionibus saepe rubiginosis.

〔生態〕腐朽せる樹幹上に生ずる。〔産地〕臺灣：臺中日月潭畔（野口，1932 年 8 月）。從來土佐國の數個處のみから知られていた種であるが、今回新しく臺灣にもある事がわかつた。（續く）

植物採集覺書（其六）（奥山春季） 神奈川縣（其三）

○錄 倉

原産植物 コギシギシ *Rumex nipponicus* Franch. et Sav., Enum. Pl. Jap. 2: 471 (明 12)。ケウツギ *Deutzia scabra* var. *typica* f. *pubescens* Makino 植研 1: 26 (大 9)。ワウバイ *Prunus Mume* var. *flavescens* Makino 植研 8: 46 (昭 8)。ユキヨモギ *Artemisia Momiyamae* Kitamura 植分 3: 97 (昭 9) 稻村ヶ崎 ヒカゲオトギリサウ *Hypericum umbrosum* Y. Kimura 東亜植圖 1-4: 74 pl. 34 (昭 11)。ウスバラセイタサウ *Boehmeria tenuifolia* Satake, Boehm. Jap. 501 (昭 11)。ヤエナリスダジヒ *Castanopsis cuspidata* var. *Sieboldii* f. *Pluricarpa* Nakai 植研 15: 265 (昭 14)。

植物 (羊) コガネシノブ, コバノヒノキシダ, イハトラノヲ, クモノスシダ, ノコギリシダ, シラガシダ, フモトシダ, メヤブソテツ, コガネシダ, コシダ, (單) ケカモノハシ, アシカキ, ハマアラスゲ, ビロウドテソツキ, ハマオモト, ハナメウガ, ムギラ

7) 植鑑. 46. 504 (1932)